



2007年10月19日

関係各位

高千穂交易株式会社
 代表取締役社長 戸田秀雄
 (コード番号 2676 東証第1部)
 問合せ先
 取締役常務執行役員
 経営システム本部長 赤堀寛人
 電話 03-3355-1111

繰延税金資産の取崩し及び 平成20年3月期業績予想(連結・個別)の修正に関するお知らせ

当社は、平成19年9月中間期において、繰延税金資産の取崩しを行うこととしましたので、その概要をお知らせするとともに、平成19年5月8日付当社「平成19年3月期決算短信」で公表いたしました平成20年3月期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)の業績予想(連結・単体)を、下記のとおり修正いたします。

記

1. 繰延税金資産の取崩し

当社は、平成17年3月期決算において遊休土地の減損処理を行い、減損損失に係る将来減算一時差異について、その解消(実際の土地売却)に向けたスケジューリングに基づき、繰延税金資産を計上してまいりました。この間、遊休土地の早期売却に注力してまいりましたが、一部を除き、スケジューリングに沿った売却が実現しないため、当該繰延税金資産341百万円を取崩しいたします(連結・単体)。

2. 平成20年3月期中間期業績予想数値の修正(平成19年4月1日～平成19年9月30日)

(1) 連結

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想 (A)	16,530	700	650	404
今回予想 (B)	16,700	580	640	20
増減額 (B-A)	170	△120	△10	△384
増減率	1.0%	△17.1%	△1.5%	△95.0%
前期(19年3月期)中間期実績	14,395	615	667	424

(2) 個別

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想 (A)	14,750	500	510	320
今回予想 (B)	15,500	425	550	△20
増減額 (B-A)	750	△75	40	△340
増減率	5.1%	△15.0%	7.8%	—
前期(19年3月期)中間期実績	13,224	408	515	330

(3)修正の理由

中間期業績予想につきましては、売上高は、全体として概ね当初予想通りの見込みであります
が、相対的に利益幅が薄いデバイス事業（主に半導体販売）の売上比率の増加による影響を受け、
営業利益は当初予想を下回る見通しであります。一方で、経常利益は、為替差益の計上を主因に、
概ね当初予想通りとなる見込みであります。

こうした中、中間純利益につきましては、1. の繰延税金資産の取崩しの影響を受け、当初予
想を大幅に下回る見通しであります。

なお、個別業績の修正理由につきましても、同様であります。

3. 平成20年3月期通期業績予想数値の修正（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

(1)連結

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	33,670	1,680	1,600	985
今回予想 (B)	33,670	1,680	1,600	610
増減額 (B-A)	—	—	—	△375
増減率	—	—	—	△38.1%
前期(19年3月期)実績	30,296	1,342	1,448	875

(2)個別

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	30,350	1,330	1,300	805
今回予想 (B)	30,350	1,330	1,300	430
増減額 (B-A)	—	—	—	△375
増減率	—	—	—	△46.6%
前期(19年3月期)実績	28,122	933	1,098	654

(3)修正の理由

通期業績につきましては、売上高、営業利益及び経常利益につきましては、セキュリティ機器
販売の増加に伴う利益幅の拡大等もあり、当初予想通りといたします。

一方で、当期純利益につきましては、1. の繰延税金資産の取崩しの影響を受け、当初予想を
大幅に下回る見通しであります。

なお、個別業績の修正理由につきましても、同様であります。

当社は、引き続き事業戦略を強力に推進し、業績の向上に努めてまいり所存であります。

※ この資料の予想は、本資料の発表日時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、
多分に不確定要素を含んでおります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結
果となる可能性があります。

以 上